

新規事業評価調書

【道路事業】

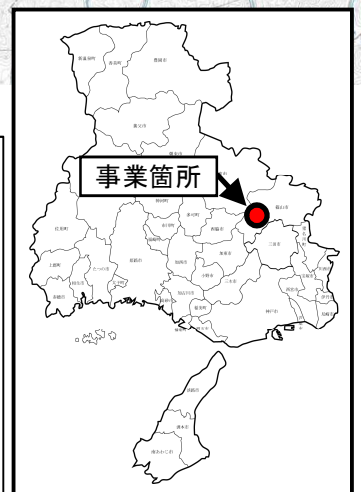
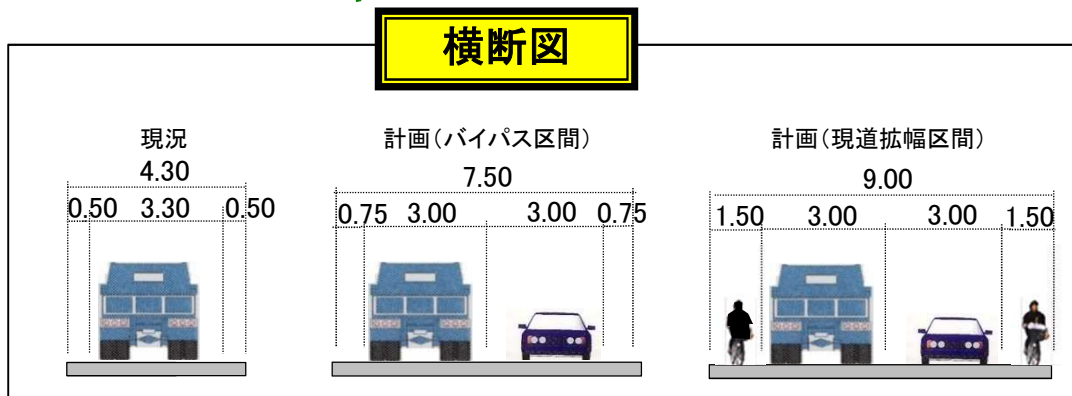
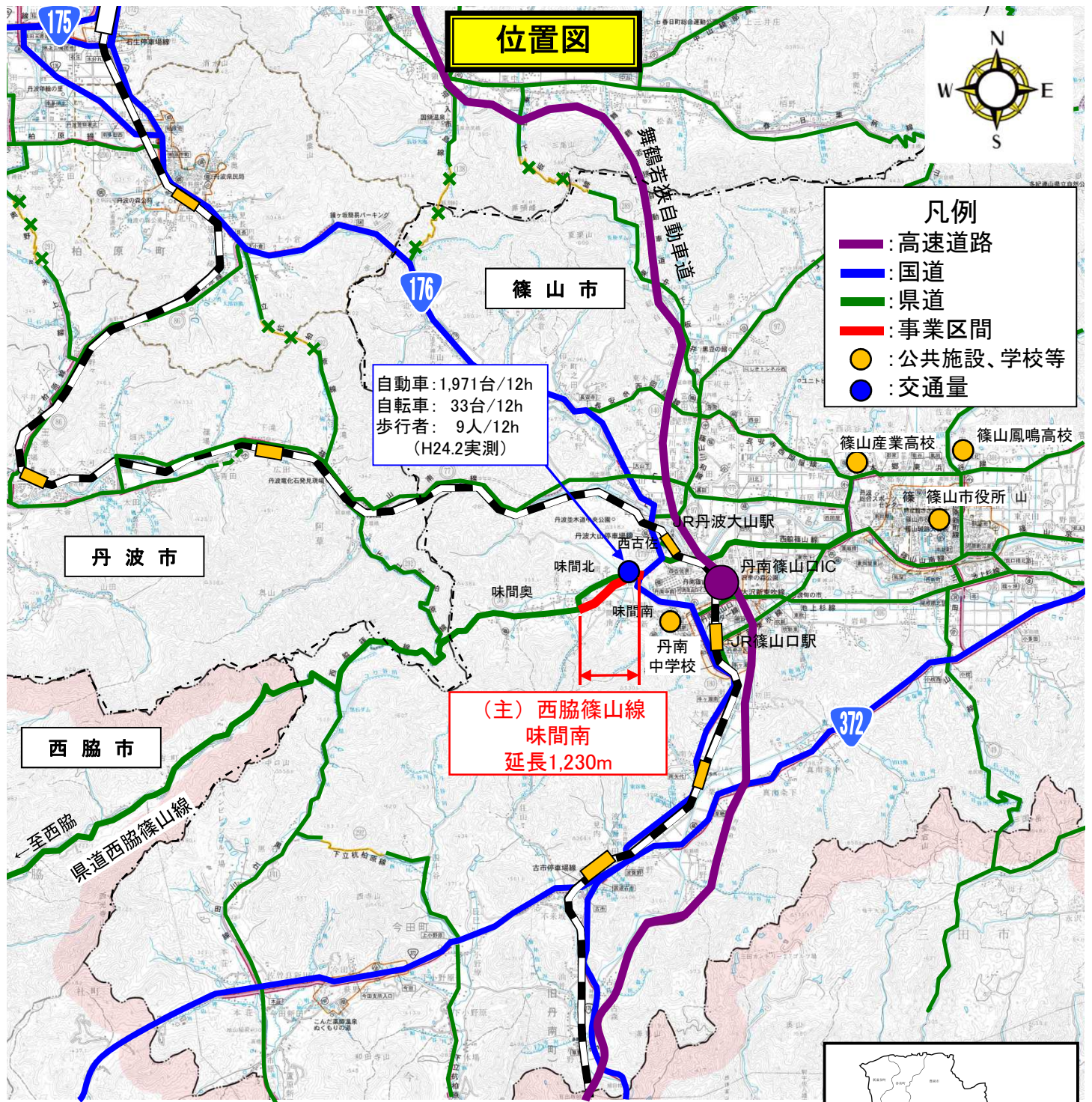
主要地方道 西脇篠山線

県土整備部

土木局 道路街路課

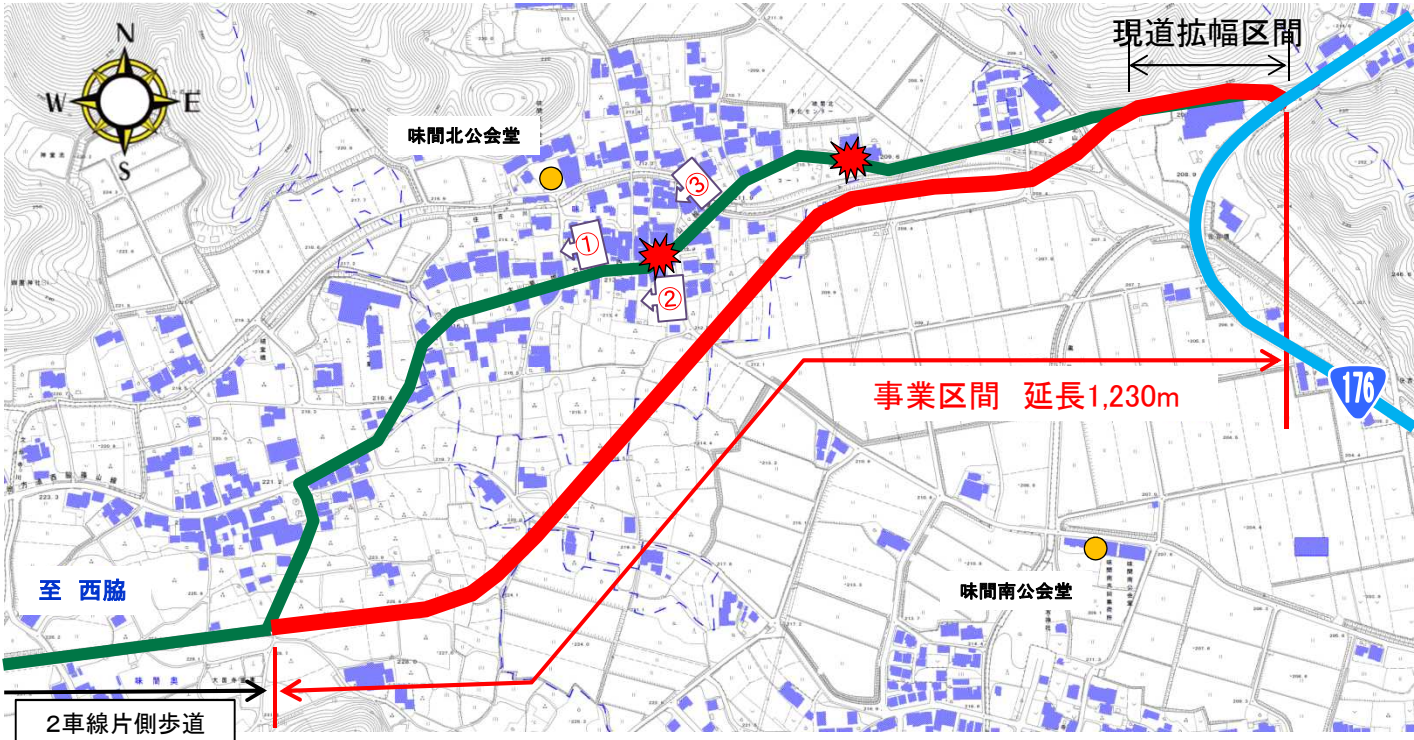
投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 嶋田 博文 (県道班長 吉村 達郎)	内線	4362 (4376)	
事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着手予定年度	完了予定年度
道路事業	道路改築事業 主要地方道西脇篠山線 〔味間南〕	篠山市味間奥～ 味間南	5.9 億円	2.0 億円	平成 29 年度	平成 33 年度
事業目的			事業内容			
<p>本路線は、西脇市から篠山市味間地域を經由し篠山市中心市街地に至る地域間交流を支える東西幹線道路である。</p> <p>○円滑な交通の確保 集落内の幅員狭小な現道をバイパス化することにより、安全で円滑な交通を確保する。</p> <p>○安全な自転車・歩行者通行の確保 通過交通の転換及び現道拡幅区間での幅広路肩の採用により、自転車（高校生の通学）・歩行者の安全な通行を確保する。</p> <p>○産業・観光拠点へのアクセス強化 国道 176 号から周辺の工場・店舗や大国寺（国指定重要文化財）へのアクセスを強化することで、地域の産業・観光の活性化を図る。</p>			<p>【延長】 1,230m</p> <p>【構造規格】 第 3 種第 3 級</p> <p>【計画幅員】 2 車線 歩道なし 車道 6.0m（全幅 7.5、9.0m）</p> <p>【計画交通量】 2,700 台/日（H42 予測）</p> <p>【現況交通量】 自動車：1,971 台/12h（H23 実測） 自転車：33 台/12h（H23 実測） 歩行者：9 人/12h（H23 実測）</p> <p>【負担割合】 国：45% 県：55%</p>			
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	<p>① 集落内を通過する現道は、幅員が狭小（最小車道幅員 3.3m 1 車線）で、大型車の離合が困難である。このため、本バイパスの整備により、安全で円滑な交通を確保する。</p> <p>② 現道は歩道がなく、過去 5 箇年（H23～H27）に 2 件の人身事故が発生している。このため、本バイパスにより通過交通の転換を図り、自転車・歩行者の安全性を確保する。</p> <p>③ 当該地域には、丹波茶の製茶工場をはじめ複数の工場・店舗が立地し、幅員狭小な現道を大型車が往来している。また、紅葉で有名な大国寺（国指定重要文化財）へ向かう大型バスなども通行している。このことから、地域の産業・観光の活性化を図るため、国道 176 号から各施設へのアクセスを強化する。</p>					
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>① 費用便益比B/C=1.5</p> <p>② バイパス化により通過交通が転換され、移動時間の短縮、現道の自転車・歩行者の安全確保および交通事故の減少が図られる。</p> <p>③ 地元役員で構成される主要地方道西脇篠山線（味間地区）整備促進期成同盟会や周辺企業等から早期整備の要望がなされており、事業執行環境が整っている。</p> <p>④ 完成後の現道の管理引継について、篠山市と協議が整っている。</p>					
(3) 環境適合性	① 通過交通をバイパスへ転換させることで、大型車等による交通騒音や排気ガスなどの沿道影響が軽減される。					
(4) 優先性	① 当該事業区間西側のバイパスが平成 17 年度に開通しており、地域から強い要望があるとともに、地域活性化の視点から早期整備が必要である。					



交通の円滑化と安全性の向上

- ・幅員狭小(最小車道幅員3.3m)のため、大型車・乗用車の離合が困難
- ・路肩が狭く、歩行者や通学自転車などが危険
- ・現道では、過去5年間に人身事故が2件発生(H23~H27)



① 幅員が狭く車両の離合が困難



② 路肩が狭く通学自転車が危険



③ 路肩が狭く歩行者が危険



凡例

① 現況写真撮影地点

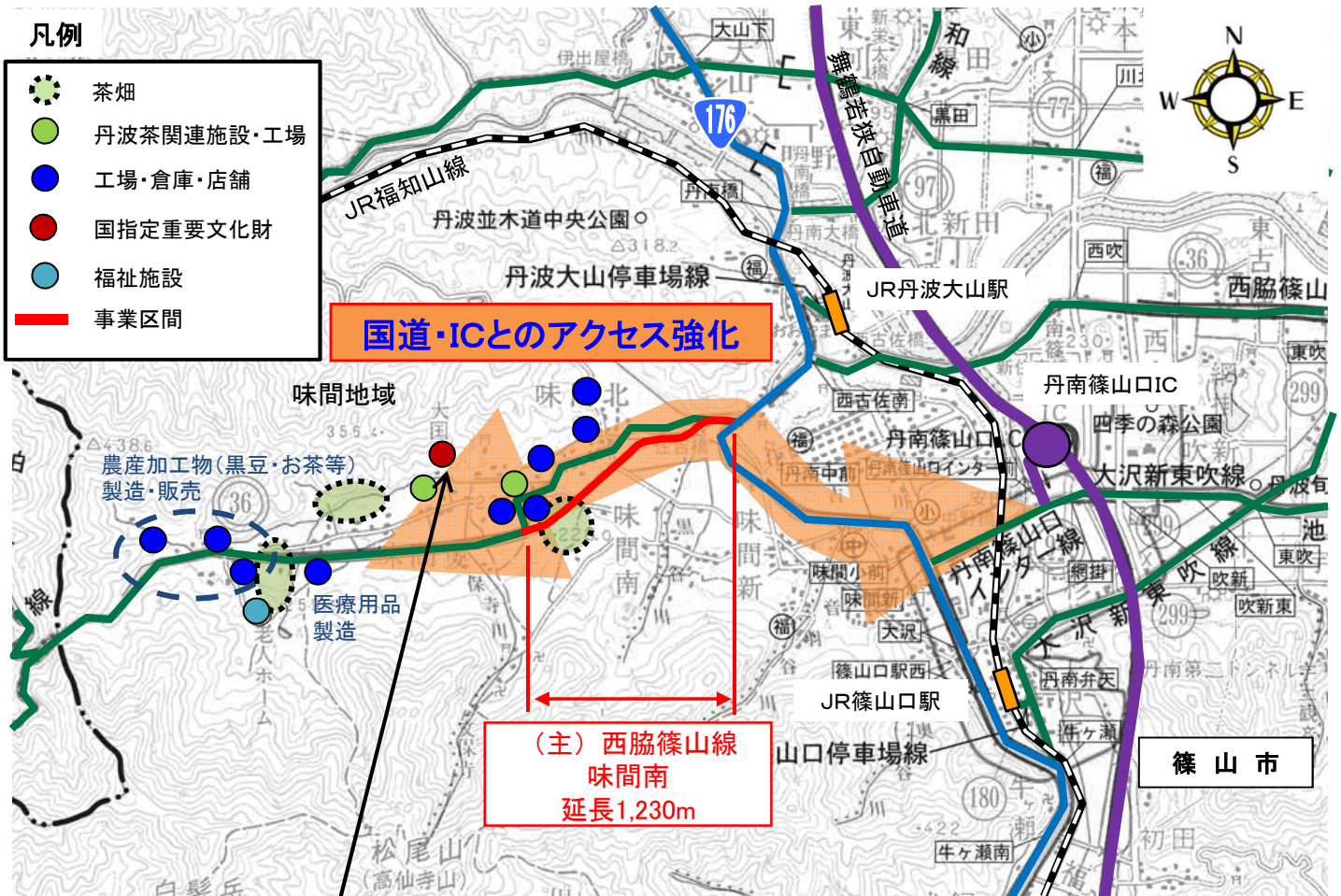
— 西脇篠山線(現道)

■ 建物

★ 交通事故発生地点(人身)

産業・観光拠点へのアクセス強化

- ・特産の丹波茶の製茶工場をはじめ、複数の工場・店舗が立地し、大型貨物車が通行
 - ・紅葉で有名な大国寺(国指定重要文化財)や丹波茶まつり(6月開催)等へ向かう大型バスや自家用車が通行
- 〔紅葉時期の11月に大型バス約20台/日が来訪〕



大国寺



写真: 丹波篠山観光協会ホームページより

大国寺と丹波茶まつり(6月)



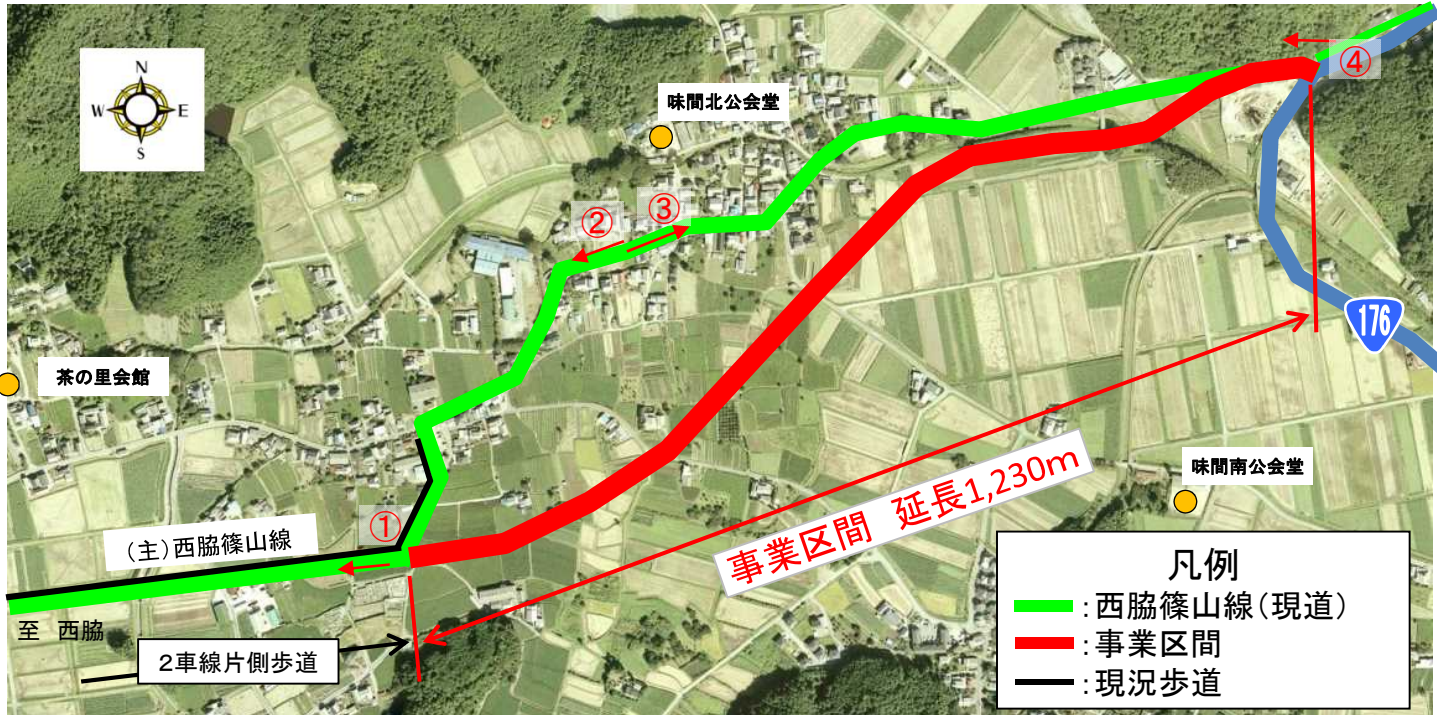
写真: 篠山市より

- ・丹波茶まつり(6月)やもみじまつり(11月)等が開催され、大型バスによる来訪がある



- ・工場、店舗への大型貨物車が幅員狭小な生活道路を通行

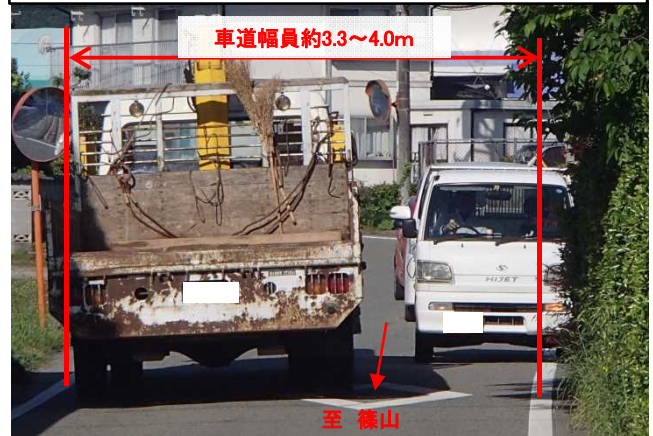
周辺状況図



① 西側改良済区間(2車線片側歩道あり)



② 現道状況(幅員狭小)



③ 現道状況(大型車が通行)



④ 国道176号交差点(事業区間東側)



1. スケジュール

当初計画

工 種	年 度				
	H29	H30	H31	H32	H33
調査・設計	■				
用地補償		■	■		
道路改良			■	■	■

2. 事業効果について

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
道路	① 走行時間短縮便益 ○ 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用－整備有りの走行時間費用 走行時間費用： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365$ 日
	② 走行経費減少便益 ○ 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費－整備有りの走行経費 走行経費： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365$ 日
	③ 交通事故減少便益 ○ 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額－整備有りの事故損失額 事故損失額： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位})$

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B / C
		便益額 (百万円)			総費用	事業費	維持管理費	
					(百万円)	(百万円)	(百万円)	
道路	道路改築事業 主要地方道 西脇篠山線 味間南	① 走行時間短縮便益 668		計画交通： 2,700台/日 (H42)	502	454	48	1.5
② 走行経費減少便益 43								
③ 交通事故減少便益 18								
計 729								

(2) 費用対効果に含まれない主な効果

- ① 篠山市味間地域へのアクセス強化による産業・観光の活性化
- ② 通過交通のバイパスへの転換による沿道環境の改善

道路街路事業の効果

対象事業：道路事業（主）西脇篠山線 味間南

（１）費用対効果

効果項目（費用対効果の便益内容）	
走行時間短縮	目的地までの時間短縮
走行経費減少	走行速度の向上や走行距離の短縮による便益
交通事故減少	交通事故の減少による人的損害額、物的損害額及び渋滞による損失額等

（２）費用対効果に含まれない効果

○印は当該事業効果の主な項目

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等	
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 （緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備）	—
		救助・救援活動の支援 （災害時の通行不能や孤立集落の解消）	—
		減災対策への取組み （二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保）	—
	平時	救急医療体制の支援	—
		交通安全対策	○ 通過交通のバイパスへの転換による現道利用者の安全性の向上
②地域の活性化	地域間交流の促進	—	
	中心市街地の活性化	—	
	地域産業の活性化	○ 篠山市味間地域へのアクセス性の向上による地域産業の活性化	
	観光支援	○ 篠山市味間地域へのアクセス性の向上による観光支援	
	地域プロジェクト等支援	—	
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	—	
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	○ 通過交通のバイパスへの転換による騒音、排気ガスなどの沿道影響の軽減	